

Parallelizer II

Full Stereo Line Mixer

日本語版

OWNER'S MANUAL

Version 1.0x

Musicom 
Preserving Your Tone, Pure and Dynamic

この度は、Musicom 製品をご購入頂き、誠に有り難うございます。

本機の性能を十分発揮させると共に、末永くご愛用いただくため、必ずご使用前にこの取扱説明書をお読み下さい。お読みになった後は大切に保管してください。

ご使用になる前に、本機の性能をトラブルなく十分に発揮できる様、以下の説明を必ずお読みください。

■品質保証に関して

本機は、Musicom日本総代理店 株式会社HOTONE Japanが、ご購入後1年以内の品質保証を行っております。

ただし、以下に該当する場合は、保証期間内であっても無償修理の対象にはなりません。

1) 修理の際は、購入者や購入日が証明できる明細（購入者が確認できる日付入りの購入明細、領収書等）をご提示いただけない場合。（ご購入後は、販売レシート等を大切に保管してください。）

2) 非正規販売店や海外から購入された製品。中古品または譲渡された製品。

3) 取扱説明書に記載されていない使用方法や使用条件による破損や修理。

注1：最初の購入者に限り、（保証期間内に限り）無償で修理、または当社の裁量により製品を交換いたします。また、本保証を最初の購入者以外へ譲渡することは出来ません。

本書に記載された文章、図版、作品は、全て「著作権」及びそれに付随する「著作隣接権」等の諸権利を保有しています。弊社では、内容を理解することを目的とする使用方法のみを許諾しております。

▲警告：安全のため、特に注意していただきたいこと

1. 異常があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてご購入先もしくは、弊社迄ご連絡下さい。異常な音がしたり煙が出て異臭がした時などは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

2. 電気ショックを避けるため、本体を絶対に開けないでください。

本機は、高電圧が発生しているため危険です。内部に触ると感電する恐れがあります。内部の調整や修理は、弊社にご依頼ください。また、火事や感電を避けるために、湿度が非常に高い場所に置いたり、雨天の際に野外で使用することは避けてください。

▲警告：次のような場所での使用は出来る限り避けてください。

●湿度の非常に高い場所

●砂やほこりが多い場所

●台所、バスルーム、湿気の多い地下室など、水のかかりやすい場所

●空気の循環を妨げる場所、ヒーターの近くなど、温度が高い場所

■電源ソース

電源は、DC9V / 150mA 以上（センター・マイナス）の電源アダプターに接続してください。

エアコン（エアコンディショナー、冷暖房機器）等の使用により、電圧が著しく低下する場合がありますから、家庭用 100V 電源が正しく出力されているかどうかテスターで確認しましょう。また、長時間本機を使用しない場合は、本機の電源コードをコンセントから抜いておきましょう。

■取り扱いについて

乾いた柔らかい布を使用して、外装をきれいに保ちましょう。

クリーナーやシンナーは使用しないでください。

■サービスについて

このマニュアルに記載されていない操作や取り扱いは行わないで下さい。記載外の使用方法で本機を使用されると製品不良が発生する場合が考えられます。必ず本書に基づいた使用方法で使用してください。

記載外の使用方法による破損や修理は、保証期間中の機器であっても保証対象外になります。本体の取り扱いは慎重に行ってください。

万が一、負傷された場合でも弊社では一切の責任を負いません。

修理が必要な場合は、ご購入先もしくは、弊社へご依頼ください。

1. ご紹介

Parallelizer II は、3 x Stereo SEND & 3 x Stereo RETURN (Dry) を備えたパラレル・エフェクトループが可能なステレオ・ライン・ミキサーです。Parallelizer II は、ドライ信号が独立してミキサー部に直接入力されます（ブロック図参照）。直列接続時やデジタルペダルからのドライ信号をミックスするという妥協が必要ありません。また、本機のシグナルフローは、バッファー、ミキサー共に高いクオリティのコンポーネントを使用したアナログ回路でデザインされており、高い音質が保証されています。外部 MIDI ペダルから MIDI IN 機能で、Dry、各 Wet 信号の ON/OFF も可能です。

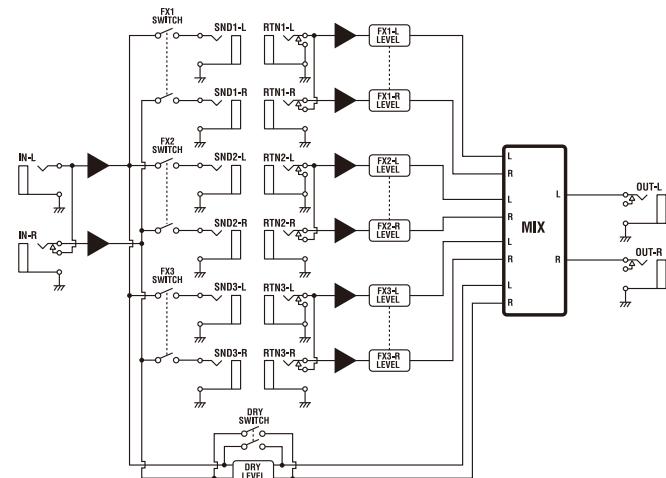
1.1 主な特徴

- 3 x ステレオ SEND、3 x ステレオ RETURN & ステレオ OUT
- エフェクトレベル、ドライレベルのそれぞれが、ボリューム設定できます。
- Manual、MIDI PC、MIDI CC、MIDI PC+CC の 4 つのモードで動作します。
- 128 メモリーロケーション (by MIDI PC)
- 9VDC 入力、+/-12VDC 内部電圧動作による高ダイナミックレンジを誇ります。
- MIDI 経由によるファームウェアアップデートが可能です。

1.2 スペシフィケーション

• 入力 / リターン インピーダンス	1M Ω
• 出力 / センド インピーダンス	100 Ω
• 最大信号レベル	+18dB
• 消費電流	150mA
• サイズ	168 x 110 x 70 mm
• 重量	670g

1.3 ブロックダイヤグラム



1.4 フロントパネル

FX1 ~ FX3 スイッチ

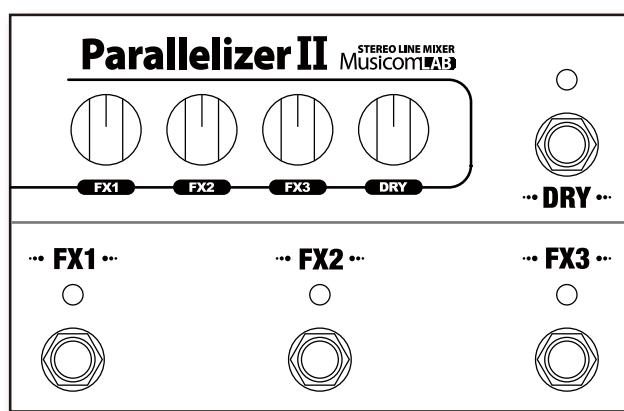
SND1 ~ SND3 を ON/OFF します。LED が点灯している時、信号は各 SND (L/R) ジャックから出力されます。

DRY スイッチ

100% ドライ信号 (DRY ノブで設定) の ON/OFF です。

FX1 ~ FX3 コントロールノブ

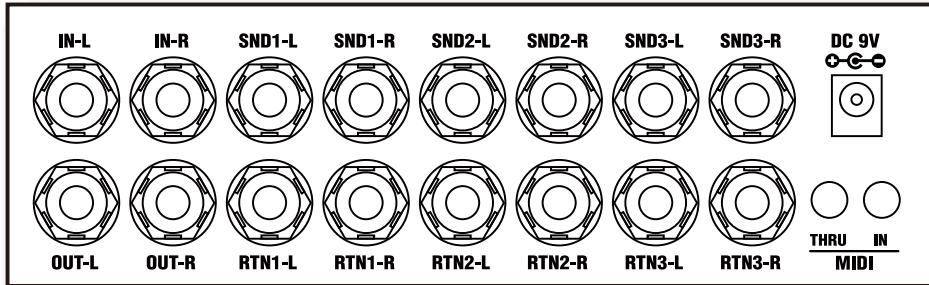
RTN (L/R) ジャックに入力されるウェット (wet) 信号レベルをコントロールします。これらのコントロールノブを最大に回し切ったところが、ユニティーゲインのポジションです。最小にすると信号はミュートされます。



DRY コントロールノブ

ドライ (dry) 信号レベルをコントロールします。このコントロールノブを最大に回し切ったところが、ユニティーゲインのポジションです。最小にするとドライ信号はミュートされます。DRY スイッチの上にある LED が点灯していない時は、DRY コントロールノブの設定にかかわらず、ドライ (dry) 信号レベルは 100% ミックスされます。

1.5 リアパネル



IN ジャック

インストルメント、エフェクター（ステレオインスト出力、またはステレオエフェクト出力）からの信号を入力します。

SND1-L/R ~ SND3-L/R ジャック

エフェクターの L/R 入力と接続します。FX スイッチが ON の時に各エフェクターへ信号が送られます。

RTN1-L/R ~ RTN3-L/R ジャック

エフェクターの L/R 出力を接続します。注) モノ接続の際は L リターンのみを使用してください。

OUT-L/R ジャック

この出力からアンプや他の機器へ接続してください。

MIDI IN/THRU

MIDI IN は他の外部 MIDI 機器からのメッセージを受けます。

MIDI THRU は外部 MIDI 機器から受けたメッセージをそのまま出力します。

ノート：MIDI IN/THRU コネクターはタイプ A (スタンダード) 極性です。

DC9V 電源コネクター

本機の電源入力です。DC9V 150mA が供給できる電源アダプター（センターマイナス）に接続してください。マルチ出力電源ユニットの多くは、グランドループによる電源ノイズを発生する恐れがあります。電源によるノイズが発生しないように、Strymon の Ojai 電源の使用を推奨します。

2. オペレーションモード

本機には 4 つの異なるモードで動作します。『オペレーションモードの設定』をご覧ください。

2.1 マニュアルモード

このモードでは MIDI IN は動作せず、フットスイッチだけが働きます。電源を切る前の最終スイッチコンビネーションが自動的にメモリーされ、電源再投入時に復元されます。

2.2 MIDI プログラムチェンジ、MIDI PC モード

128 のプログラムチェンジが本機に保存されます。プログラム毎にスイッチの ON/OFF コンビネーションが保存され、MIDI プログラムチェンジ (MIDI PC) でリコールされます。

スイッチコンビネーションのエディット、メモリーへのセーブ方法

1. 本機と同じ MIDI チャンネルを使って MIDI プログラムチェンジを送信してください。
2. 本機のスイッチコンビネーションを決定します。
3. DRY スイッチを長押ししてメモリーに保存します。保存の際、LED が点滅します。

注) LED が点滅しない場合は、MIDI チャンネルが合致していないか、MIDI 接続がされていないことが考えられます。

2.3 MIDI コントロールチェンジモード

本機は MIDI CC でスイッチの ON/OFF が可能です。それらには 4 つのコンビネーションがあり、CC ナンバーと共にセクション 5. の『グループ CC ナンバーの設定』で説明します。

2.4 MIDI PC + MIDI CC モード

このモードでは、本機は MIDI PC と MIDI CC の両方でコントロールされます。スイッチ ON/OFF のコンビネーションは MIDI PC でリコールされ、各スイッチは MIDI CC で ON/OFF されます。

3. オペレーションモードの設定

1. FX1 と FX2 を一緒に長押ししながら電源を接続します。FX1 と FX2 の LED がフラッシュしたら、スイッチを離してください。

2. 表のように LED が動作モードを表示します。

3. この表から、動作モードを FX1、FX2、FX3、DRY スイッチで選択します。

4. DRY スイッチを長押しして動作モードを保存します。本機は自動的にリスタートします。

OPERATION MODE	FX1 LED	FX2 LED	FX3 LED	DRY LED
Manual mode	ON	OFF	OFF	OFF
Program Change mode	OFF	ON	OFF	OFF
Control Change mode	OFF	OFF	ON	OFF
Program Change + Control Change mode (Factory Default)	OFF	OFF	OFF	ON

4. MIDI チャンネルの設定

1. FX2 と FX3 スイッチと一緒に長押しします。FX2 と FX3 の LED がフラッシュしたら、スイッチを離してください。

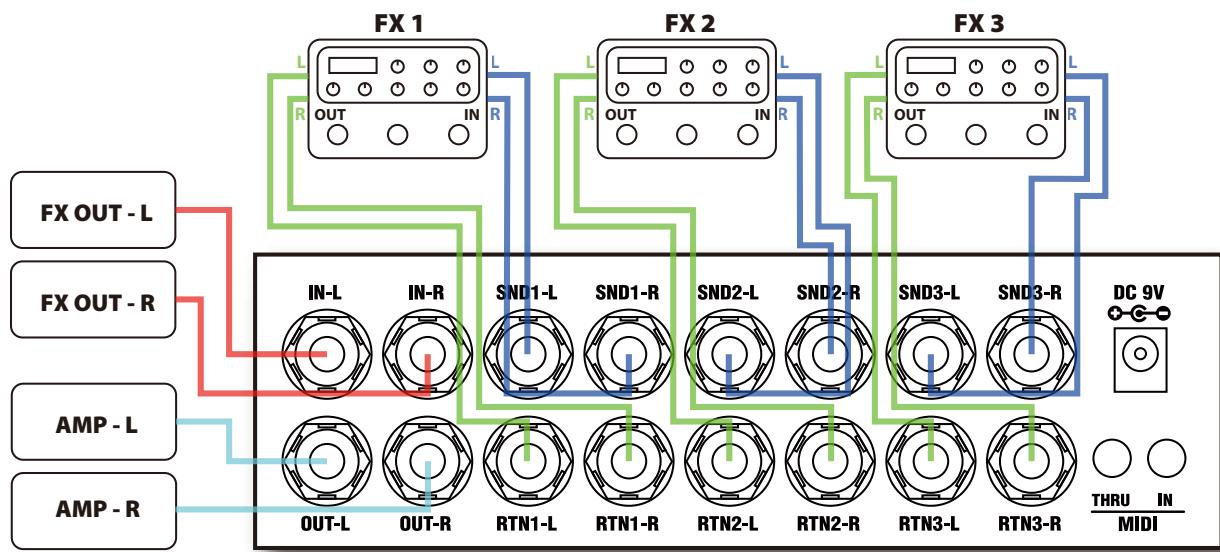
2. 4 つの LED が MIDI チャンネルを表示します。(MIDI チャンネル表を参照)

3. この表のように MIDI チャンネルを FX1、FX2、FX3、DRY スイッチで選択します。

4. DRY スイッチを長押しして MIDI チャンネルを保存します。本機は自動的にリスタートします。

MIDI Channel	FX1 LED	FX2 LED	FX3 LED	DRY LED
1 (Factory Default)	OFF	OFF	OFF	OFF
2	ON	OFF	OFF	OFF
3	OFF	ON	OFF	OFF
4	ON	ON	OFF	OFF
5	OFF	OFF	ON	OFF
6	ON	OFF	ON	OFF
7	OFF	ON	ON	OFF
8	ON	ON	ON	OFF
9	OFF	OFF	OFF	ON
10	ON	OFF	OFF	ON
11	OFF	ON	OFF	ON
12	ON	ON	OFF	ON
13	OFF	OFF	ON	ON
14	ON	OFF	ON	ON
15	OFF	ON	ON	ON
16	ON	ON	ON	ON

ステレオセンド / ステレオリターン



注) ボリュームがブーストされないように、接続した FX は wet 100% (kill Dry) に設定してください。

Musicom Lab 正規輸入販売代理
株式会社HOTONE Japan
〒113-0034 東京都文京区湯島2-2-4 JP-BASE御茶ノ水9F
TEL 03-6820-5823

5. グループ CC ナンバーの設定

1. FFX1 と FX3 スイッチと一緒に長押ししながら電源を接続します。FX1 と FX3 の LED がフラッシュしたら、スイッチを離してください。
2. 4 つの LED が MIDI CC ナンバーを表示します。(MIDI Control Change 表を参照)
3. この表のように MIDI CC ナンバーを FX1、FX2、FX3、DRY スイッチで選択します。
4. DRY スイッチを長押しして動作モードを保存します。本機は自動的にリスタートします。

MIDI Control Change Numbers				FX1 LED	FX2 LED	FX3 LED	DRY LED
FX1:88	FX2:89	FX3:90	DRY:91 (Factory Default)	ON	OFF	OFF	OFF
FX1:92	FX2:93	FX3:94	DRY:95	OFF	ON	OFF	OFF
FX1:96	FX2:97	FX3:98	DRY:99	OFF	OFF	ON	OFF
FX1:100	FX2:101	FX3:102	DRY:103	OFF	OFF	OFF	ON

6. ファクトリーリセット

1. FX1&2&3 を一緒に長押ししながら電源を接続します。FX1&2&3 の LED がフラッシュし、DRY LED が点灯したら、スイッチを離してください。
2. DRY スイッチを押して、ファクトリーリセットを実行します。
3. ファクトリーリセットが完了すると、LED がシーケンス点灯して、本機は自動的にリスタートします。

7. 接続方法

モノセンド / ステレオリターン

